

京都大学経済学部同窓会会報

京都大学経済学部同窓会 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学経済学部内

「あいさつ」

近況報告



京都大学経済学部同窓会理事長
大学院経済学研究科長
経済学部長
西村周二

同窓生のみなさま、お元気でいらつしやいますか？日本経済の回復の兆しを示す情報をいくつか目にする今日この頃ですが、みなさまの周辺での景気動向はいかがですか？

最近の政府公表データでは、合計特殊出生率がついに一・二九となり、これまで進んできた「少子高齢化」にますます拍車がかかってきました。しかし年金制度改革も、必ずしも十分とはいえず、老若のいずれにとつても、必ずしも将来の安心な生活は見通せないようです。世界に目を向けますと、イラク情勢は相変わらず混沌としており、パレスチナ問題にも明るい兆しが見えませんが、世界的にも石油価格問題をはじめ、世界経済が好転するためのシグナルがあまり感じられない一方で、

地球温暖化に関わる京都議定書の批准もかなり手間どっているように思えます。

このように内外とも経済学が指針を示すべき課題が山積していますが、私どもの経済学研究科・経済学部では、こういった問題をはじめ、数多くの難問に答えるべく、日夜、研究・教育に励んでおります。さて、申し遅れましたが、この四月から、小生が経済学研究科長・経済学部長をつとめることとなりました。任期は二年間で、一九九九年十月より半年間だけ同研究科長・学部長をつとめて以来四年ぶりということになります。ご承知のように、この四月から国立大学は「国立大学法人」となりました。教職員が公務員でなくなる、会計基準が変わるなど、さまざまな変更がありま

すが、おそらくこういった変化の影響は、時間の経過とともに少しずつ目に見えてくるものと思われま。法人化にともなつて、私どもの研究・教育に対する基本姿勢を変える意志はなく、自由・自主独立の学風を堅持するつもりですが、対外的にはおそらく、国民のみなさまを始め、学生諸君に対しての説明責任（accountability）が増してくることは十分に自覚しております。

より効率的な事務体制を敷いて学生サービスを向上することや、ファカルティ・デベロップメント（FD）に一層の努力を向けて、教育のありかたに工夫を加えることも、法人化を契機にして取り組むべき課題です。このような流れと軌を一にして、本年四月から、大学院の専攻の組織替えを行いました。従来の「組織経営分析」専攻を「ビジネス科学」専攻とし、高度専門職業人教育に本格的に乗り出し、経営戦略、経営管理、会計、マーケティング、といった伝統的な経営学分野のカリキュラムに加えて、ファイナンス工学、ベンチャー経営、ITビジネス、公共政策など、時代が要求するいくつかの先端的な分野の専門

教育を行うことになりました。この専攻の修士課程一学年の定員は四十七名で、発足したばかりの本年には、早速きわめて優秀な学生が多く入学しております。さらに、近い将来、この課程を専門職大学院として、通称MBAといわれる学位の取得が可能となるよう、努力を傾ける所存です。

こういつた流れの中では、研究者養成や基礎研究がとかくおろそかになりがちになるという危惧がありますので、この点に關しては、決して時流に流されないよう配慮を行うつもりです。私どもの学部・研究科は、これまで日本だけでなく、世界にも多くの研究者人材を輩出してきました。今後このためにより一層の努力を払いたいと考えております。以上、変わってはいけないことと、変わらなくてはいけないこととの区分けについての舵取りに苦心する今日この頃です。

ところで、これまでの会報でもお知らせしてきましたように、平成十四年十一月から、私どもの学部・研究科の中に「上海センター」を発足させております。また中国の復旦大学にもその支所を設け、主に現在中国の経済研究を進めております。このセンターの研究・教育活動を支援していただくために、本年七月に「上海センター協力会」を発足させました。ここでは、さまざまな産学連携事業を行う予定であり、その一部はすでに活動

を始めたいです。具体的には、中国・上海に関する情報を協力会会員のみなさまにメールで配信しております。このニューズレターは、四月に開始以来六月末時点ですでに十一号を重ね、会員のみなさまから予想外のご好評をいただいております。この協力会の設立に当たっては、同窓会会員の有志の方々にも大のご尽力をいただき、設立後も引き続きご尽力いただく予定です。

「時計台記念館」となり、そこでは、京都大学の歴史に関する資料室があつて、閲覧いただけます。また瀟洒なレストランも新たに生まれ、同窓生の方々やそのご家族が訪れられ、周辺の散策をなさつておられる姿を見ることがもすれば可能です。お暇な折には、是非古きものと新しきものが融合した、京都大学のキャンパスにもお越しください。今後とも、経済学部・経済学研究科の発展を有形・無形にご支援いただくとともに、近況報告とさせていただきます。

同窓会總會のご案内

平成16年度経済学部同窓会總會を下記の日時に開催いたしますので、何かとご多用のことと思いますが、会員諸氏お誘いあわせのうえご出席賜りますようお願い申し上げます。詳細につきましては、同封のご案内状を御参照下さい。

記
日時 平成16年10月23日（土）15時～19時30分
場所 京都大学百周年時計台記念館

京都大学経済学部同窓会事務局

会費納入のお願い

平成16年度（16年4月～17年3月）の同窓会年会費5,000円を同封の振替用紙で、納入下さいますようお願い申し上げます。

京都大学経済学部同窓会事務局
住所：〒606 8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-3419 FAX 075-753-3490

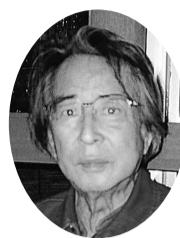
なお、ご住所変更の折は、お知らせ下さいますようお願いいたします。

近況報告

近況、思い出断片

京都大学名誉教授

大野 英二
(昭六十一退官)



一九八六(昭和六一)年三月に京大を定年退職した後、河野健二さんを学部長として創設された中部大学国際関係学部(一九九〇年四月)に赴任、一九九五(平成七)年四月以降は、教職から離れて、まったく自由になりました。しかし、その年の六月からは人工透析を受けることになり、九月以上、週に三回、自宅近くの相馬病院へ通う生活を続けています。

知識人の肖像(未来社、二〇〇一年)、『比較社会史への道(未来社、二〇〇二年)』の四冊は、この間にまとめた研究成果であります。

私はいま八十一歳を越えています。経済学部で戦後半世紀近く親しくしていた田中真晴さん、出口勇蔵先生、平井俊彦さんたちが、最近あいついで亡くなられ、経済学部の戦後の歩みについて忌憚なく話し合える人はほとんどいなくなりました。

出口先生から親しく教えを受ける最初の機会は、戦後、経済学部で行われたマルクス『経済学批判』(カウツキー版)の序説(Meinung)の輪読会で与えられた。

めの一基準」が発表され、われわれは強い衝撃を受けていました。蛸川虎三先生のもので統計学を研究していた有田正三講師から、戦後に山田盛太郎とその『日本資本主義分析』の存在を教えられて以来、山田先生の価値論から再生産論をへて日本資本主義分析にいたる学問的展開を理解することは、私の当時の主な問題関心の一つでした。有田さんは戦後の「総退陣」で京大経済学部を去り、滋賀大学経済学部へ移りましたが、今年一月二十九日に亡くなりました。

『ナチズムとユダヤ人問題』(リブポート、一九八八年)、『ドイツ問題と民族問題』(未来社、一九九四年)、『ナチ親衛隊』(一九八六)は、戦後の歩みについて忌憚なく話し合える人はほとんどいなくなりました。

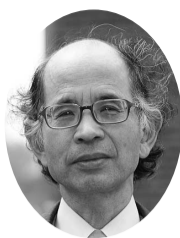
私はいま八十一歳を越えています。経済学部で戦後半世紀近く親しくしていた田中真晴さん、出口勇蔵先生、平井俊彦さんたちが、最近あいついで亡くなられ、経済学部の戦後の歩みについて忌憚なく話し合える人はほとんどいなくなりました。

出口先生から親しく教えを受ける最初の機会は、戦後、経済学部で行われたマルクス『経済学批判』(カウツキー版)の序説(Meinung)の輪読会で与えられた。

めの一基準」が発表され、われわれは強い衝撃を受けていました。蛸川虎三先生のもので統計学を研究していた有田正三講師から、戦後に山田盛太郎とその『日本資本主義分析』の存在を教えられて以来、山田先生の価値論から再生産論をへて日本資本主義分析にいたる学問的展開を理解することは、私の当時の主な問題関心の一つでした。有田さんは戦後の「総退陣」で京大経済学部を去り、滋賀大学経済学部へ移りましたが、今年一月二十九日に亡くなりました。

めの一基準」が発表され、われわれは強い衝撃を受けていました。蛸川虎三先生のもので統計学を研究していた有田正三講師から、戦後に山田盛太郎とその『日本資本主義分析』の存在を教えられて以来、山田先生の価値論から再生産論をへて日本資本主義分析にいたる学問的展開を理解することは、私の当時の主な問題関心の一つでした。有田さんは戦後の「総退陣」で京大経済学部を去り、滋賀大学経済学部へ移りましたが、今年一月二十九日に亡くなりました。

忙中閑なし



京都大学名誉教授

近藤 文男
(平十五退官)

十八年間お世話になった京都大学大学院経済学研究科(平成九年四月一日までは経済学部(在籍)を昨年退職し、四月より京都橘女子大学文化政策学部で教育と研究を続けております。

説をうち立てようとした研究に打ち込んできました。最近一冊の書物として完成し、『日本企業の国際マーケティング』というタイトルで有斐閣から出版しました。

本書は日本の代表的な電機メーカーである東芝、日立、三菱電機、松下電器産業、ソニー、シャープ、三洋電機の各社が、戦後どのような戦略で対米進出を果たしたのか。それを国際マ

スタラジオが一躍有名になったことが吸引力となり、次第に他の企業の評判も高まり、日本製の認識が高まり各社とも自社ブランドに切り替え、今ではかつての家電王国アメリカに替わって日本企業が君臨しております。

の大きな仕事は、私の所属する文化政策学部における「現代マネジメント学科」設立準備委員として奔走したことです。京都大学での勤めを終え、ほとんどの時間を費やしました。

めの一基準」が発表され、われわれは強い衝撃を受けていました。蛸川虎三先生のもので統計学を研究していた有田正三講師から、戦後に山田盛太郎とその『日本資本主義分析』の存在を教えられて以来、山田先生の価値論から再生産論をへて日本資本主義分析にいたる学問的展開を理解することは、私の当時の主な問題関心の一つでした。有田さんは戦後の「総退陣」で京大経済学部を去り、滋賀大学経済学部へ移りましたが、今年一月二十九日に亡くなりました。

国際マーケティングの自

戦後どのような戦略で対米進出を果たしたのか。それを国際マ

スタラジオが一躍有名になったことが吸引力となり、次第に他の企業の評判も高まり、日本製の認識が高まり各社とも自社ブランドに切り替え、今ではかつての家電王国アメリカに替わって日本企業が君臨しております。

の大きな仕事は、私の所属する文化政策学部における「現代マネジメント学科」設立準備委員として奔走したことです。京都大学での勤めを終え、ほとんどの時間を費やしました。

めの一基準」が発表され、われわれは強い衝撃を受けていました。蛸川虎三先生のもので統計学を研究していた有田正三講師から、戦後に山田盛太郎とその『日本資本主義分析』の存在を教えられて以来、山田先生の価値論から再生産論をへて日本資本主義分析にいたる学問的展開を理解することは、私の当時の主な問題関心の一つでした。有田さんは戦後の「総退陣」で京大経済学部を去り、滋賀大学経済学部へ移りましたが、今年一月二十九日に亡くなりました。

めの一基準」が発表され、われわれは強い衝撃を受けていました。蛸川虎三先生のもので統計学を研究していた有田正三講師から、戦後に山田盛太郎とその『日本資本主義分析』の存在を教えられて以来、山田先生の価値論から再生産論をへて日本資本主義分析にいたる学問的展開を理解することは、私の当時の主な問題関心の一つでした。有田さんは戦後の「総退陣」で京大経済学部を去り、滋賀大学経済学部へ移りましたが、今年一月二十九日に亡くなりました。

(京都橘女子大学文化政策学部教授)

近くて遠い日本と台湾

京都大学経済学部同窓会名誉会員

羅 吉 煊

太平洋戦争は日本国民だけでなく、アジアの人々に実に大きい影響を与えた。

一九四五年八月十五日正午、京大経済学部のキャンパスで残留学生だった台湾出身の私は、ポツダム宣言受諾の「玉音放送」を緊張して聞いた。ある種の解放感に似たものよりも、悲痛茫然とした重苦しい空気が受け取った印象の方がより強烈で鮮明に残っている。

気が強い蜷川虎三学部長の涙を呑んだ訓示、決して挫くことなく、隠忍自重、前途に横たわる凡ての苦難を克服すれば、日本は必ず再起する。は、今日世界第二の経済大国に成長したと

いう事実が、統計を利用した大量観察の先見性を証明している。日本は明治維新後、アジアで最初に近代化された国家である

が、連合国側に立つて勝利をつかんた中国は、内乱が続発し、安定せず、後進社会の段階に留まっていたというのが実情である。国家の存立と性格の基本的条件を定めた根本法たる憲法も制定されていないということを終戦後知った時の私の衝撃も忘れられない。

日本の台湾領有初期、台湾の近代社会移行に京都大学もかわりがある。第四代台湾総督児玉源太郎及び民政長官後藤新平の時代、殖産局長として新式製

糖業の発展、蔗種の改良に貢献した著名な学者新渡戸稲造や十幾年の歳月をかけて浩瀚なる研究成果、「台湾旧慣調査報告書」全九冊、「台湾私法」全十三冊、「清国行政法」全九冊を作成した

岡村参太郎、織田 万はいずれも京大法学部の教授であった。この分野で後世これに匹敵するものはない。これは、京都学派を形成する東洋史の研究にもつながっているかも知れない。

戦前アジア最大の烏山頭ダムと一万六千キロに及ぶ灌漑用水路建設の土木水利事業（一九二〇年着工、十年を要した）に献身した八田興一技師は台湾最大の穀倉地を嘉南平原に創成した恩人として農民に敬慕されている。戦後地元の人々によって夫婦を祀る日本式の墓（妻は日本に引き揚げる直前ダムに投身自殺）が作られ、烏山頭には銅像も建てられ、更に最近記念室も開設された。戦前京大農学部で農業経済を専攻した李登輝前総

統は台湾農業経済の育成と近代化の推進に盡力しただけに、八田技師の功績を特に高く評価し、賞賛の辞を惜しまない。

戦前日本が台湾領有五十年間に嘗々として、築きあげた統治の成果に対する評価は別としても、それが凡て跡形もなく喪失する性質のものではない。日本は社会的共通資本を構成する自然環境と社会建設の基盤を放棄させられたが、制度的資本に含まれる文化価値観や人間の心構は、日本が海外に残した無形の貴重な資産である。ただし、それをどう有効に活用するかという重要な問題は、日本が長期的な国家利益を視野にいれて、真剣に考えるべきである。

京都大学台湾同窓会の会員は、皆日本国内の同窓会に負けない愛校精神に富んで、開校百年記念を慶祝する意義ある行事に積極的に参加する希望があったが、具体化しなかったのは残念で、

我々の努力不足だったと反省している。

それにしても、台湾の海外留学統計に眼を転ずれば、一九九四年以来オーストラリアが日本を抜いているのは理解に苦しむ現象である。近くて親密だった国日本が疎遠になり、遠い国が近くなりつつあるのは不自然である。又、台湾学生日本留学が全体として減少傾向という憂えるべき状態にある。

私は長い銀行員生活で、最終段階に於いて彰化銀行会長として戦後台湾の銀行に先駆けて東京支店の開設を実現し、それが日本進出の突破口になった。ロンドン支店開設の祝賀パーティーには前首相サッチャー夫人とイングリッド銀行総裁エディ・ジョージを招待、祝辞を述べていただいた。当時シテイで大きい話題になった。最近彰化銀行退職行員の懇親昼食会があったが、余興のカラオケで年配の旧同僚が昭和思い出の歌謡曲「北

国の春」や「細雪」などを続々と活発に披露された。日本NHKの「のど自慢」で、競演して優勝する地方の歌手にひけを取らない美声を張り上げて歌うので顔負けしたが、これは、韓国、北朝鮮では想像し得ない情景である。しかし、時の流れに押されて、日本語族がだんだん少なくなっていくのは避けられない。

日本と台湾が何時正常の自然な関係に戻るのか、それとも近くて遠い不明瞭な関係を持ち続けるのか、誰も正確な解答を用意していない。シエイクスピアの劇「十二夜」にある名セリフ「What's to come is still unsure」が頭に浮かんで来る。

台湾の近況に就いて、踏み切った報告をすべきだが、紙数が限られているので、それは省略し、新聞雑誌の詳しい報道に委ねたい。

（台湾総合研究所 理事長）

卒業生だより

卒業後の一年間

森川陽介 (平十五卒)

二〇〇三年の三月に経済学部を卒業後、リーマン・ブラザーズ証券会社東京支店に就職しました。

私の所属する債券営業本部金融法人部では、都市銀行、信託銀行、生損保といった大手機関投資家を顧客とする部署で、これらの機関投資家にCDOなどのストラクチャー・クレジット商品や、不良債権や不動産を担保とした証券化商品を売買しています。

日々の業務は、それぞれの金融機関で運用を行うファンド・

マネージャーに、日々のマーケットの状況やリサーチの提供、実際に訪問しての商品説明を通して、これらの債券をご購入いただくことです。

入社直後は、社内でのコミュニケーションが全て英語で行われることや、マーケットが急激に動いた時などに大きな声で叫んでいる人がいることに戸惑いました。数ヶ月社内を過ごすうちに次第に慣れてきました。

入社約半年後の昨夏には、ニューヨークの本社で世界中の同期と共に新人研修がありました。講義は、リーマン・ブラザーズの企業文化・哲学といった会社の根幹に関することや、会計学や債券数学といった理論的なものが中心だったのですが、講義が全て英語で行われることもあ

り、大変チャレンジングな研修となりました。

帰国してからは、セールスマンとして早く顧客を担当できるようにするために、トレーニングの時間を数ヶ月与えてもらいました。この期間には、周囲のシニア・セールスマンの投資家との電話を聞かせてもらったり、資料の作り方を見て、実際にやらせてもらったりということを繰り返しました。

私は、就職活動をしていた中で、結果を厳しく求められる環境で自分を試してみたいと考えて、外資系投資銀行での職を望みました。実際に働き始めるまでは、会社が期待するパフォーマンスに達しなれば、すぐに必要とされなくなるような殺伐とした環境ではないかと想

卒業十年を迎えて

藤本 茂 (平六卒)

高度な知識を吸収し、投資家にも選ばれる営業を目指したいと考えています。

現在、私は、安全保障を専門とする研究者として防衛大学校で教鞭を執らせて頂いております。従来より安全保障分野は国際政治学の対象領域と認識され、その専門家も法学部出身者により占められておりました。私ももとも安全保障問題に興味を持っており、入学以前より色々関連書籍を読んでおりました。ある時、偶然にも恩師である吉

出版案内

『ウィーンの経済思想…メンガー兄弟から二十世紀へ』

ミネルヴァ書房、二〇〇四年三月



京都大学大学院経済学研究科教授

八木 紀一郎

スミス、マルクス、ケインズといった第一級の巨人ほどではないにせよ、その人をはずすと経済学の歴史的視野が成り立たなくなる経済学者がいる。ウィーンの経済学者カール・メンガーもその一人である。彼は近代経済学の始祖の一人とされているが、その理論や方法を、十

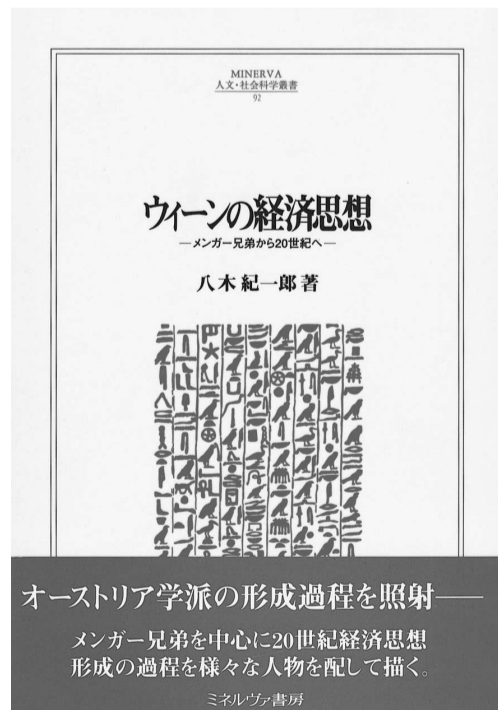
九世紀後半期の時代状況のなかにおいてその意味を探るのがこの著作第一部の主題である。メンガー兄弟と副題にあるのは、経済学者メンガーには自由派の政治家であった兄マックスと社会主義的信条をもつ法学者であった弟アントンがいたからである。したがって、兄弟三人

の生涯とお互いの関係のなかに、この時代のオーストリアの政治と思想が反映する。他方、経済理論家としてのメンガーがドイツの歴史学派相手におこなった方法論争は、少しおいてマックス・ウェーバーに引き継がれる。こうしたなかで、登場しているのは古典的な自由主義とその挫折、合理主義的な理論構成と歴史的な現実という問題であった。伝記的な記述と理論・思想史を混合させた本書のような研究を、私は経済思想の知性史（インテレクチュアル・ヒストリー）と呼んでいる。いちおうのことは書いたつもりであったが、本書を献呈したある先輩研究者から「もっと熟成させるべきであった」という批評が帰ってきた。

たしかに、収集した素材をもとに全面的に論じなせば、もっと深い内容をもった本にできたろう。本にする際の妥協をみすかされたようである。私は、この本の前に、『オーストリア経済思想史研究』名古屋大学出版会）を出している。今度の本はその続編である。前の本は副題を「中欧（ハプスブルク）帝国と経済学者」としていた。その時は、欧州はまだ東西に分裂していて、「中欧」というのは失われた過去に過ぎなかった。しかし、一九八九、九〇年の政治変動を経た後になると、「中欧」の概念が復活し、それは欧州連合やNATOの拡大と結びついた。本書のなかの私も、現在はチエコとポーランドにまた

がるメンガー兄弟の生まれ育った地域をびげなしで歩き回っている。前著の頃には、とてもできると思えなかったことである。しかし歴史を研究していると、

どこで新しい変化をみても、みな過去の復活のように思えてしまう。それが、マイナスなのか、プラスなのか、私はまだよくわからない。

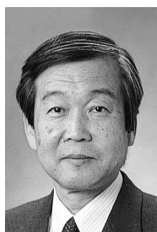


オーストリア学派の形成過程を照射

メンガー兄弟を中心に20世紀経済思想形成の過程を様々な人物を配して描く。

ミネルヴァ書房

新任教官の紹介



教授

橘木 俊詔

就任年月日

平成十五年四月一日

担当講義科目

学部/労働経済学

大学院/マクロ経済学A

出生地・生年月日

兵庫県

一九四三年八月八日

感想・抱負等

経済学部に移籍したのは昨年ですが、経済研究所に長い間いましたので、京大には長い間勤

務しています。研究所にいなから学部ゼミを担当していただき、教育はもとと好きだったといえます。

研究分野としてはマクロ経済、労働経済、公共経済等に関心があります。英語・日本語を問わず様々な書物や論文を書いています。卒業生の方々からはほとんど目に触れないところで出版されています。私の名を新聞等で気づいておられる方もいる

かもしませんが、学者の本分は研究・教育であると自覚しています。学部教育に関しては、勉強はともかく、私が学生さんに遊ばせてもらっているといった方がよく、ゼミ旅行、インゼミ、

甲子園観戦ツアー、飲み会、ソフボール大会、と行事が目白押しです。一つ自慢できるのは、学部学生と一緒に本を出版したことです。大学院教育に関しては、できるだけ優秀な経済学者を輩出したいと願っています。

助教授

澤邊 紀生



就任年月日

平成十五年四月一日

担当講義科目

学部/管理会計論

大学院/会計文化論

出生地・生年月日

和歌山県

一九六六年六月二十四日

感想・抱負等

京都大学大学院を修了した後、立命館大学、九州大学で四年ずつ過ごした後、昨春赴任しました。母校とはいえ、新しい研究棟をはじめとして私が学生だった頃とはずいぶん様子が変わり、慣れるのにしばし時間を必要としました。しかし箱物は新しくなっています。しかし箱物以外のとくにソフトの部分はいい意味でも悪い意味でも昔ながらの京大のままのところが多いように思います。

京都大学大学院では、会計文化論というユニークな科目を担当しています。他に例がないような科目ですが、組織のガバナンスやマネジメントへの会計の役立ちを考察することで、会計

の文化的側面を理解することを目指しています。経済規制や組織改革において会計の重要性が認識されるようになるなかで、会計実践が価値観と切り離せないことを自覚した専門家や研究者の養成に貢献したいと思っております。

私自身の研究対象としては、これまで国際金融規制や国際会計基準などを扱ってきましたが、組織内部における管理会計的問題の検討も会計の文化的側面を理解するためには重要だと考えています。会計学という実務と密着した領域で、微力ながらも母校の発展に寄与したいと考えております。卒業生の皆様のご指導をいただけますようお願い申し上げます。



助教授
北野尚宏

就任年月日

平成十五年十二月一日

担当講義科目

学部／東アジア社会資本整

備論

大学院／東アジア地域開発戦

略論

出生地・生年月日

東京都

一九五九年三月三十日

感想・抱負等

経済学研究科には昨年十二月に着任しました。それまでは、国際協力銀行（旧海外経済協力基金）で二十年ほど東アジアを中心に政府開発援助（ODA）の仕事に携わってきました。北京には合わせて六年半ほど滞在した勘定になります。低利長期の円借款供与を通じ途上国の社会・経済基盤整備を支援してきた

経験をもとに、現在は、中国・インドの地域開発政策比較や中国の持続可能な開発をテーマにした教育・研究活動と、「上海センター」運営委員としての活動に取り組んでいます。

鍾乳洞の探検に情熱をかけていた学生時代、吉井良三氏の「洞穴ことはじめ」を手始めに、川喜田二郎氏、梅棹忠夫氏、今西錦司氏らの著作に触れ、京都大学の学問の潮流から大きな影響を受けました。開発協力に関心をもつようになったのもこれらの書物がきっかけになっています。

今後、中国の大学をはじめとした内外の関係機関との連携推進を通して、「上海センター」の発展に少しでもお役にたてればと考えています。



助教授
宇高淳郎

就任年月日

平成十六年四月一日

担当講義科目

学部／外国経済書講読

（英語）

大学院／マーケティング経済論

出生地・生年月日

京都市

一九六九年八月八日

感想・抱負等

今年四月に、本学部に着任しました。京都大学経済学部を卒業後、大学院以降は大阪大学に所属していましたが、この度母校に赴任することができ、大変喜んでおります。

専門分野は、応用ミクロ経済学です。中でも特に、広告、モデルチェンジ、流通といった、

様々なマーケティング戦略について、ゲーム理論を用いた分析を行っています。

講義においても、ミクロ経済学に関わるものを中心に担当することになるとは思いますが、専門的な議論に偏るのではなく、常に現実的な企業活動等に触れながら、実践的な講義をしていきたいと思っております。



助教授
辻村元男

就任年月日

平成十六年四月一日

担当講義科目

学部・大学院共通

／証券投資論の手法と理論、証券システム論

大学院／証券投資分析、投資

評価論

出生地・生年月日

三重県

一九六八年七月二十七日

感想・抱負等

現在、ファイナンス・金融工学を専門として研究・教育を行っています。特に、投資プロジェクト・企業価値・事業計画・特許・不動産などの非金融資産に対するファイナンス・金融工

今後自分なりのやり方で、自分の納得できる成果を出していきたいと思っております。そして、自分の研究成果を取り入れ、先端的なトピックスを交えて、興味深い講義を提供できればと考えています。及ばないところも多いと思っておりますが、どうぞよろしくお願いたします。

学問の理論の応用に興味をもっています。ファイナンス・金融工学の分野は、学術上の成果がすぐさま現実の社会で応用される一方で、現実の社会から学術上の成果が求められるなど、活発で魅力に富んだ分野です。しかし、残念ながら社会的な要請に対応するだけの人材が揃っていないのが現実です。そこで、京都大学経済学部から、第一線で活躍が出来る者を一人でも多く輩出するとともに、研究面においても最先端の研究成果を出すことで、社会に貢献できればと考えています。



助教授
渡辺純子

就任年月日

平成十六年四月一日

担当講義科目

学部／日本経済史
大学院／日本経済史

出生地・生年月日

北海道

一九六五年十月十七日

感想・抱負等

京都大学の経済史の講座は日本の中でも最も古くから存在し、歴代の教授は学界に名を残す錚々たる学者ばかりである。その伝統を継承していく立場に立つことになり、大変な重責を感じている。

国際的に見ても、日本経済史の研究のメッカは当然日本であり、京都大学は国際的な研究拠点の一つにもなる。私は、京都大学の伝統と独自性を墨守すると同時に、東京や全国の各大学、さらには他国の研究機関と



講師
マズフナ ジャン・クロード

就任年月日

平成十六年四月一日

担当講義科目

大学院／Management Communication

出生地・生年月日

コンゴ民主共和国

一九六五年八月十八日

感想・抱負等

今年四月より経済学研究科に着任するまで、日本福祉大学、コスモ産業株式会社にて勤務しておりました。京都大学という日本の最高学府で研究教育活動ができることを大変光栄に思っています。新しく設置されましたビジネス科学専攻の担当、また大学変革期の赴任ということもあり、とても緊張感を感じて

の連携も積極的に進めていきたいと考えています。

具体的にはまず研究基盤整備の一環として、京都大学が所蔵する資料や図書オンライン化・遊及入力により一層進展することを願っている。各地に存在する日本経済史研究者がウェブ上でこれらの貴重な資料の在処を発見し、観光も兼ねてぜひ京都まで見に来てほしいと思う。

このほか、ヒアリング資料の作成も歴史的に重要な資産形成となる。各界で活躍されている京都大学同窓生に、この点で協力をお願いすることができれば幸いです。

います。

私の主な研究は、グローバルゼーション下でのビジネスの変容、特にマネジメント・コミュニケーションに関する諸問題、そして金融システム開発、金融セクター自由化が途上国に及ぼす影響の考察をしています。また、アジア・アフリカ比較経済開発、非新古典派金融論にも取り組んでいます。

他の先生方、そして事務の方々の協力を得ながら、学生に質の高い教育を提供することが私の一番の責務であると考えています。微力ながら、研究科として社会全体に貢献できるよう研究・教育に邁進していく所存です。

各支部からの便り

北海道支部

本州方面に強風で被害をもたらした台風六号の到来で心配されていた天候もさしたる影響がなく六月二十二日午後六時からホテル内の割烹「川甚」にて一年ぶりの同窓会を開催しました。北海道在住二十四名の同窓生のうち九名が参加、プロ野球両リーグの首位打者の打率を上回る出席率。三木支部長からの最近の大学の状況などのお話の後、八十一歳にしてまだ現役の塩谷達氏の乾杯の音頭で開宴。五月に卒業五十周年のクラス会（五〇名中二十四名参加）を祇園で

豪勢にやり、全てのキャンパスを訪ね、島本先輩（北海道銀行の創始者）の墓参（宇治平等院）から花街の話まで澤田博定氏から披露があった。その後参加諸氏の学生時代から現在に至るまでの思い出話に花が咲いた。それぞれに青春時代に京都で貴重な思い出を残しその後の人生を有意義に過ごしてこられた話であった。昭和三十年代後半の北海道銀行円山寮での盛んだった同窓会、当時の広瀬氏（頭取、北海道拓殖銀行中興の祖）、北海道相互銀行（現札幌銀行）社長の道家氏、



写真 前列左から松田勝彦、澤田博定、三木毅、塩谷達、後列左から成田勇一郎、今田尚男、渡辺迪、松崎義宏、酒井純（敬称略）

当時日本一の広さの浴場を誇ったホテル第一滝本社長の南氏などの今は亡き諸先輩の話、竹本事件、などなど次から次と話題が途切れ切れ。一年前に着任された松崎義宏日糧製パン社長が同窓の人脈を

生かして販路を拡大、業績を上げられておられるなど会員相互の結び付きも強調された。ただ、昭和五十六年卒業を最後にその後の同窓生が登録されていない。拓銀の破綻など北海道経済の停滞を象徴するものであろうか？若い層が薄いのには残念、との声が多かった。記念の集合写真を撮り、三木支部長が

東京支部

ら「日立新」（旭川大学学長十五年）という冊子が全員にプレゼントされた。今日は三木支部長の満八十二歳の誕生日でもあり、皆で「ハッピーバースデー」を歌い三時間の楽しいひとときを締めくくり、また元気で再会出来る日を楽しみに散会しました。（渡邊 迪（昭三十五卒）

に感銘深い内容で、時にユーモアも交えられてあっという間の一時間だった。（この様な素晴らしい話をもっと多くの人に聞いて頂きたかった。動員策を早急に検討しなくては、と痛感。本部による同窓会名簿作成に期待するところ大）

としたので、折角十五名の先生にご出席頂いたが、下谷学部長（当時）よりお一人ずつご紹介いただくことになり、先生の名札の色を変えて、懇親会の中で会員とご懇談頂くことにした。懇親の時間は充分あり（その分、お酒がよく出たが……）、学歌と琵琶湖周航歌斉唱では、大いに盛り上がった。

東京支部第十四回総会を終えて

今年四月から、大学の方が独立法人になったが、その直前の三月五日に、東京支部の第十四回総会を東京會館にて開催した。お忙しい最中に本部から十五名の先生にご参加頂き、心からお礼申し上げたい。

1. 東京支部規約改定と新役員
の承諾

東京支部では、かねてより若返りと機動力強化を図るため規約・体制検討グループを設けて検討を続けてきたが、成案したので本総会に付議することにになった。

従来は、理事（理事会）、幹事（幹事会）の二本立てになってきたが、これをすべて「理事」に改め、理事の中から常務理事（一名）、常任理

事（若干名）を選任し、会議の方は、理事会（毎年二回）、常任理事会（毎年四、五回、理事会二回を含む）に変更する。またこれに併せて、体制を強化するために新しく常任理事四名を選任する。（結果として常任理事は昭三十三年卒以下十六名となった）

以上の案が総会で満場一致で承認された。また、今回各会議、経済懇話会の年間スケジュールも決定した。

2. 筑波大学名誉教授 村上和雄氏の講演

今回は、農学部OBである村上先生に、「ここまで進んだ遺伝子の科学 人間はどう変わり得るか」というテーマでお話し頂いた。

眠っている遺伝子を目覚めさせれば、我々自身もまだまだ変われるのだ、という非常

3. 運営、その他

今回から会費を九千円（千円引き下げ）、同伴者は五千円で参加できるという新しい試みをした。同伴者（全員女性）は十二名で、来年もまた出たいとの感想が多かった。運営については、時間厳守

出席者は本部からの先生を加えて、百九十名。これだけの内容なのだから来年はもっと大勢の参加を、と役員一同胸に誓った次第である。（常務理事 合田 隆年（昭三十五卒）

大阪支部

平成十五年十一月十二日に、

毎年恒例の理事・幹事会が、大阪市内の関電會館において開催された。当日は昨年浦上前支部長から交代した辻井支部長の司会進行により同窓会の活動状況、収支決算等の議案の審議の後、企業内の異動等による理事・幹事の一部変更を承認頂き、本庄義信（昭和四十二年卒、阪神電気鉄道）氏および河野春樹（昭和四十四年卒、日本貨物鉄道）氏のお二人に新たに理事に就任頂くこととなった。また同窓会本部役員についても、昨年度大阪

支部の副支部長に就任頂いた昭和三十三年卒の大森経徳理事および昭和三十九年卒の河合司二理事を本部理事に、更に小山禎三理事（昭和三十三年卒）を本部常務理事に推薦することで理事・幹事会のご賛同を頂戴した。その後平成十六年一月二十八日ガスパール食堂において開催予定の同窓会大阪支部総会の計画概要につき、ご了承を頂戴した。また恒例の京都大学経済学部の現況並びに同窓会の活動状況については、ご出席頂いた下谷学部長および櫻田常務理事からご

報告を頂戴した。

また平成十六年一月二十八日に第十三回大阪支部総会および懇親会が大阪市内のガスビル食堂にて開催された。第一部の支部総会では、吉川勝久幹事（昭和四十三年卒、近畿日本鉄道）の司会で始まり、来賓の大学の先生方をご紹介した後、辻井支部長より、「経済環境厳しい中ではあるが、同じ学部に学んだという共通体験を通じて、互いに切磋琢磨しつつ、それぞれが将来に向けて糧となるような楽しい、有意義な総会としたい。」と挨拶を行った。続いて吉田和男教授から本学経済学部の近況についてご報告を頂戴し、久本憲夫教授から同窓会活動の状況についてご説明を頂いた。最後に支部総会の特別講演として、古川顯教授から「最近の日本の

金融政策」という題で講演をしていただいた。景気の本格的回復が待たれる中、景気浮揚のための金融政策、財政政策の在り方が問われており、多くの参加者にとつて、興味関心の深いテーマでもあり、出席者全員が熱心に聴講され、その後の質問も活発であった。

第二部の支部懇親会では、辻井支部長の乾杯で幕開けを行い、以下来賓を代表して経済学部の各教授からご挨拶いただいた他、出席最年長の加藤泰次OB（昭和十三年卒）や大森副支部長（昭和三十三年卒）、河合副支部長（昭和三十三年卒）からご挨拶を頂き、同窓会活動に向けて理解を深めるとともに、活発に懇談を行い、懇親を深めつつ、互いに再会を約して散会した。（林 信（昭五十九卒））

神戸支部（神戸同好クラブ）

京都大学経済学部同窓会神戸支部は、経済学部同窓会が昭和三五年「同好クラブ」として発足したのを受け、昭和三六年三月、同好クラブ神戸支部として発足しました。その後、大学紛争等で経済学部同窓会が中断中も、「神戸同好クラブ」として、活動を続けて参りました。平成元年に同窓会再開後は、同窓会神戸支部として、現在毎年一回

懇親会を開催しております。昨年は六月二十三日にホテルゴール神戸で開催いたしました。これまでの活動の記録は、同窓会のホームページより、神戸同好クラブにリンクしていただき、神戸同好クラブ会員のページで「kobe1995」を入力していただくとご覧いただけます。従来の神戸経済界を支えてき

た、太陽神戸銀行、川崎製鉄は合併により、三井住友銀行、JFEスチールとなり、東京に本社が移転してしまいました。他の大企業も、本社機能を実質東京に移転されるなど、当地に定着して勤務していただける大企業のかたが少なくなっております。このような事情もあり、懇

親会の参加者の増強が思うようにいかない状況です。反面、従来の参加者は特定の企業に偏った傾向がありましたが、現在はその面は是正されております。当地の同窓のかたで同窓会に参加ご希望の方はご連絡いただければ幸いかと存じます。（小野昭夫（昭四十八年卒））

愛媛支部

愛媛支部は、会員数約四〇名、発足以来四〇年、毎年二回、総会・懇親会を開催している。年会費は三千円、別に総会（懇親会）出席者の実費（五千円程度）負担により運営している。以下、昨年度の活動を報告する。

先頃一年間の英国研究留学より帰られた、松山大学・鈴木茂教授の「イギリスにおける地域活性化・町おこし活動」についてレクチャー（約一時間）。続いて下谷政弘理事長（経済学部長）から、同窓会・経済学部・大学の現況など、お話を伺った後、懇親会。豪勢に河豚鍋を囲んで大いに歓談、八時すぎ散会した。

一、上期総会（懇親会）
平成十五年六月七日（土）地の肝いりにより、肱川鶴飼い観光として開催。本部より森棟公夫教授の参加をいただき、十八名が夕刻より屋形船に集い、川風に吹かれながら、小宴を張り、クライマックスの鵜飼い見物に興じ、楽しい三時間を過ごした。
二、下期総会（懇親会）
平成十六年一月十七日（土）午後五時より、伊予銀行松山保養所にて開催。出席は十七名。

愛媛には他学部の同窓会がないこともあり、法学部その他から数名のオブ参加を得ている。ともあれ、愛媛には若い同窓生の補充が少なく、当同窓会も高齢化が進行している。地元企業や大学に、ひとりでも多くの卒業生が、来てくれることを期待している。（渡部 晃夫（昭三十一卒））

九州北部支部

1. 会員数
一一〇名程度
地元企業・地方自治体等への就職者を中心に、東京・大阪に本社を置く企業の九州北部地区勤務者等により構成。
2. 役員氏名
支部長・鎌田 迪貞
（昭和三十三年卒 九州電力代表取締役会長）
理事・山田 松華
（昭和十九年卒 日本通運（株）参与）
理事・黒瀬 和男
（昭和三十年卒 西日本総合ドリソク（株）取締役社長）
理事・藤永 憲一
（昭和四十八年卒 九州電力（株）経営企画室長）
3. 総会
・ 年一回、原則として五月の第三水曜日に開催
・ 場所は、会員各位の集まり
4. 役員会
・ 総会のほか、春・秋・年末年始などの年二〜三回役員会・懇親会を開催し、大学や同窓会本部の状況などについての情報交換
5. その他
・ 十六年度は、同窓会本部のご協力により、これまで事務局が把握していなかった同窓生の情報を提供いただき、新たに約三十名の方に支部同窓会総会の案内状を送付し、そのうち四名が新規参加された。今後とも、同窓会本部と連携を図り、同窓会の発展に努めたい。

九州南部支部

九州南部支部（熊本・宮崎・鹿児島）の平成十

六年度総会は、七月三日(土)、鹿児島市の城山観光ホテルで、菱山泉支部長(昭和二四年卒、学校法人津曲学園理事長)、京都大学の塩地洋教授、卒業生など過去最多の十七名が出席して開かれた。

1. 総会

(1) 京都大学現況報告

京都大学の塩地洋教授から、独立行政法人化後の大学運営について、昨秋完成した「百周年時計台記念館」の紹介等、大学の概要報告があった。

(2) 支部長の交代について

九州南部支部は、菱山泉氏が支部長となり平成九年に発足。これまで毎年、支部総会を開いてきた。本年度総会で、菱山支部長は、これまでの経緯や同窓会全体の現況を紹介しながら、支部設立以来八年目を迎えたこの機会に、支部長を辞してその職を若い人に譲りたい」と、辞意を表明した。

この後、新しい支部長の人選に移り、瀬地山敏氏(昭和三五年卒、鹿児島国際大学学長)を選出、全会一致で承認された。瀬地山氏は、鹿児島市出身。昭和四十年三月に京都大



九州南支部総会

学大学院経済学研究科博士課程を修了後、京都大学教授、関西大学教授等を務めたほか、京都大学在職中は、経済学部長・大学院経済学研究科長、学生部長、大学総長特別補佐等の要職を歴任している。平成十五年十月に、鹿児島国際大学の第十一代学長に就任した。

また、支部長以外の役員についても、鹿児島県理事として、海江田順三郎氏(昭和二八年卒、高島屋開発株式会社社長)の後任に丸元貞夫氏(昭和三八年卒、阪東機工株式会社社長)を、丸元氏が務めていた幹事(会計監事を兼ねる)の後任に小田原雄蔵氏(昭和二九年卒、株式会社小田原商

店取締役)を選出した。平成十五年度の会計報告がなされたほか、九州南部支部の会費を改定した(七千円から八千円に値上げ)。

2. 講演会

京都大学の塩地洋教授が

「中国自動車流通の現状と課題」と題して、約一時間講演した。

3. 懇親会

講演会終了後、懇親会を開催した。土居吉郎氏(昭和十六年卒)の乾杯により開宴。塩地教授をはじめ、昭和十六

年から平成九年卒業の出席者全員が自己紹介をした後、世代を超えて懇親を深めた。最後は全員で「琵琶湖周航の歌」を斉唱し、閉会した。

平成十六年六月末現在の支部会員は七十五名(熊本十三名、宮崎十二名、鹿児島三十名)。会員の高齢化や南九

京都大学経済学研究科

上海センターの活動について

上海センター長

山本裕美

上海センターは現代中国経済の調査研究を行う拠点として経済学研究科に二〇〇二年十二月十五日に設立され、二〇〇三年一月九日に上海支所を復旦大学日本研究中心に設置した。客員研究員制度も発足させて学内外で二十名以上を任命している。

研究所の研究業績を調査している。当時の国策に沿って設立された研究所であるが、その調査研究業績を再調査してその目録を作成して出版すると同時に真に学問的意義のあるものは復刻する予定である。

第四は二ニュースレターの発行である。上海センター協会の会員に対するサービスとして最新の中国経済、上海経済の情報を提供するために「二ニュースレター」(電子版)を月三回程度発行している。上海センター発足時は「季刊二ニュースレター」の刊行を予定していたが、変化のスピードが速い中国経済の実情を如実に会員の方々に提供するためには電子版が最良の手段であると判断した。更には本学部の卒業生であり、経済学研究科で博士号を取得した上海人の曾憲明氏を上海支所特約研究員に任命して「二ニュースレター」の原稿作成に協力して頂いている。また上海センター研究員の活動日誌、活動報告、エッセイを掲載している。「二ニュースレター」は好評を博している。

科のホームページにも上海センターのホームページを設けているが、未だ簡単なものなので現在これを改良中である。国際会議に関するプログラム、論文の要旨等掲載することを考えている。

第三は上海センター協会の設立である。上海センターは二〇〇二年に京都大学のプロジェクトとして文部科学省に概要要求をしたが、許可されるどころとはならなかった。しかし、当時の長尾眞総長の英断により総長裁量経費より予算を頂き、上海センターの発足が可能となった。そして上海センターの財政基盤を強化するために我々は二〇〇四年二月に個人会員・法人会員から構成する「上海センター協力会」を組織して会費を頂き、その会費を活動経費に納入することによって財政基盤を強化することが出来た。この協力会の理事会準備会は四月二十三日に開催し、七月二日には正式

第五は教育活動である。交換教授はすでに復旦大学と実施している。二〇〇二年度は京大側から二人派遣し、復旦大学側から一人派遣している。今後は人民大学とも交換教授を開始する予定である。また本経済学研究科博士課程(英語コース)の学生募集をすでに復旦大学、人民大学において行なっており、今後も継続して行く予定である。

第六は委託研究である。上海センターとしては客員研究員の協力を得て委託研究を行うことを考えている。現在政府関係機関から委託研究の話があり、これに応札すべく研究体制を整備中である。

更に補足すべきは上海センターのホームページの改善である。現在京都大学大学院経済学研究

第二は調査研究プロジェクトである。現在進めている調査研究プロジェクトとして経済学研究科が戦前に設立した東亜経済

のシンポジウムを予定している。また自動車産業関連のシンポジウム等四つのシンポジウムを予定している。

更に補足すべきは上海センターのホームページの改善である。現在京都大学大学院経済学研究

のホームページの改善である。現在京都大学大学院経済学研究

過去と未来、大学と社会、あらゆる学問領域をつなぐインターフェイスの場

工学部建築学科初代教授・武田五一が設計し、1925（大正14）年に誕生した時計台は、以来80年近くにわたって京都大学のシンボルとして親しまれてきました。

21世紀を迎えてさらなる飛躍を遂げるべく、時計台は、財団法人京都大学教育研究振興財団の助成を受けて、平成13年9月から免震構法を取り入れた工事に着工し、平成15年12月に京都大学百周年時計台記念館として再生しました。

京都大学の伝統と知的資産を受け継ぎながら、新たに「学術の国際化」、「異分野学問領域の交流」、「社会と大学との学問的交流」を実現するインターフェイスの場として誕生しました。



京都大学百周年時計台記念館

新たな学術交流拠点 社会への情報発信基地の誕生

1F

- ①大学総合案内（時計台記念館事務室）TEL075-753-2285
時計台記念館の利用案内・申し込みとともに、京都大学に関するあらゆるご質問にお答えします。
受付時間：9：00～17：00（土・日・祝日を除く）
- ②京大サロン
教職員等のほか、名誉教授、元職員、卒業生が自由に交流する場
- ③百周年記念ホール
国際・国内学会、シンポジウム、講演会等にご利用いただけます。2カ国語同時通訳設備付
500席 利用時間：9：00～21：30
- ④名誉教授室
名誉教授の交流の場
- ⑤大学文書館
京都大学の歴史資料等に関する研究・教育施設
- ⑥歴史展示室
大学文書館閲覧室
京都大学の歴史に関する展示、資料公開の場
開館時間：9：30～17：00（月曜日休館） 閲覧室の利用は水・木・金のみ

2F

- ⑦国際交流ホール（・・・）
式典、レセプション、会議、学会等に300名（3分割可 各室100名）までご利用いただけます。
利用時間：9：00～21：30
- ⑧会議室（・・・）
利用人数：18名、18名、30名、24名 利用時間：9：00～21：30
- ⑨迎賓室（旧総長室）
来賓応接室



百周年記念ホール



会議室

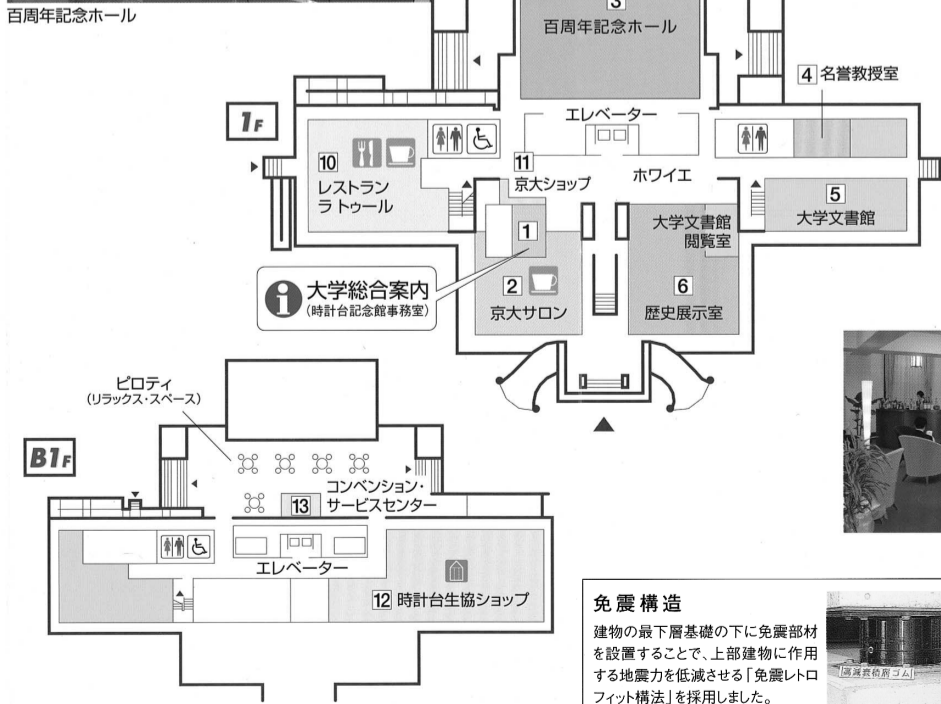


迎賓室

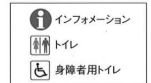


京大サロン

- ⑩レストラン ラトゥール
フランス料理。教職員、学生、学外の研究者などの交流の場。学外の方もご利用いただけます。
営業時間：11：00～22：00
TEL. 075-753-7623
- ⑪京大ショップ
京大グッズや、京都大学ならではの商品、書籍などを販売
営業時間：10：00～17：00
（土曜日は11：00～15：00 日・祝日は11：00～14：00）
Tel. 075-753-7630
- B1F
- ⑫時計台生協ショップ
文具、食品、日用雑貨をはじめ、薬、時計、DPE、コピーサービス、ドライクリーニング
営業時間：10：00～20：00
（土曜日は11：00～15：00 日・祝日休み）
Tel. 075-753-7630
薬、コピー、クリーニング等は利用時間、休みが異なりますのでお問い合わせください。
- ⑬コンベンション・サービスセンター
学会、研究会、各種イベント開催の各種サポートやJRチケットの販売などを生協が行います。
営業時間：10：00～17：30（土・日・祝日休み）
Tel. 075-753-7655



免震構造
建物の最下層基礎の下に免震部材を設置することで、上部建物に作用する地震力を低減させる「免震レトロフィット構法」を採用しました。



インフォメーション
トイレ
身障者用トイレ